

2019年度 佐賀西部コロニー 事業実績報告書

1. 法人運営に関するもの

本年度は、昆虫の里と白石作業所では、平成24年4月より開始した就労移行支援事業を4月末で廃止し、利用者様への支援が充実する職員配置を行い、多良岳福祉園では生産活動を行わない土日祝日と夜間などの生活支援員の増員を行い、利用者様の支援体制の強化を図った1年である。また嘱託職員の賃金はこれまで現金支給をしていたが、締め日の見直しを行い、長年懸案事項としていた全職員の銀行振り込みをおこなうことができた。

また10月からの消費税増税により、会計ソフトの更新と税理士事務所との契約を行い、複雑な税務処理に対して、問題なく移行することができた。

本年度の職員研修は、AIG損害保険より職員を派遣していただき、リスクマネジメント研修会をし、事故の無い安全な施設づくりに努めた。

9月に法人の評議員である土井陸男氏が逝去されたことに伴い、新評議員として山崎明人氏に就任を頂いている。

2. 福祉事業活動

災害に見舞われた年であり、第35回全日本カブト虫相撲大会においては、開催当日の朝に県内全土に大雨特別警報が発令され、開催を中止せざる負えない状況となったが、すでに会場に向かい連絡の取れない参加者もあり、縮小しての開催と判断するなど、これまでの経験が通用しない難しい対応に追われる1年でもあった。しかし視察研修旅行や佐賀西部コロニー収穫祭、更に各事業所において様々な余暇活動を実施した他、尾車部屋より力士を招くなど、ご利用者に喜んでもらえる様な取り組みを行った。

3. 就労事業活動

海水栽培と地域元気営農事業への取り組みを進めながら、本年度も農福連携への活動を実施した。しかし就労支援事業においては各施設とも厳しい状況であり、更には3月以降からの新型コロナウイルスにより各種イベントが中止となったが、工夫し例年並みの工賃支給を行うことができた。

2019年度 昆虫の里 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

2019年度は働き方改革が推進される中、福祉活動を行う上でも創意工夫が求められ向上心を持って取り組む事が求められている。就労継続支援B型事業所として受注及び生産活動と、常に純利益重視の取組みを目指した。様々な課題に対しても業務の改善や役割分担を図り、効率性に特化した取組みが求められるのである。利用者処遇に関しては個別支援計画書に基づき、ひとりひとりにあった細かな支援を行い生活の質(QOL)の向上を目指しワークライフバランスの充実の強化を図った。

特に利用者様の健康維持活動については、医療連携を含む個別に対応した食事指導・支援のあり方等をホームスタッフと連携し、服薬量が減った方が出てきたことで、健康意識が高まってきた。

職員の資質向上については、各種研修会など参加や社会福祉主事、サビ管など資格取得の研修を受講させ、福祉施設職員としての知識向上と意識改革を図った。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

本年度の35回全日本カブト虫相撲大会は大雨の中、利用者様と共に準備に取組み、大会時には利用者様がスタッフとして参加し参加者と交流を深めた。

3施設合同の視察研修旅行においては観光を楽しみながら社会のルールや食事マナーなど経験出来た。収穫祭や定期配送時など販売活動に積極的に参加することで、社会参加の意識も高まった。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者様個々に合わせた支援を目指し、佐賀西部ホームと連携して支援にあたった。

また偶数月第1土曜日を環境整備の日として施設内の環境美化に取り組んだ。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

安全配慮に心がけ、けがのない安全で明るい作業場の環境づくりに努めた。

合同朝礼時にラジオ体操を取入れ、体力維持や体調管理に心がけてもらい毎日明るく元気に活動できるように取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は利用者様の人員増減なしで障害福祉サービス事業収入は、73,573千円と昨年より▲249千円の減収となった。施設整備については老朽化していた送迎車両入れ替え、岩下みかん倉庫内に休憩室作成し処遇向上を図った。また印刷部門のカッティングプロッターや指導員室のエアコンなどを更新した。

3. 就労支援事業活動

今年度は木工部門は園舎建て替えに伴う家具工事、施設工事や木製新聞ラックなど特注品を年間通じて製作し、多種多様な商品づくりを行った。園芸部門は事業の中心は果樹班だがミカン園全体が老木の為、一昨年より品質向上のため改植事業を進行中のため収量は昨年並みであった。売り上げ確保のため昨年度より菌床きくろ栽培や原木しいたけなどキノコ栽培を取り入れ収入源の確保を行った。印刷部門については価格競争が激化する中で、革製品づくりなど新たなブランドづくりを行った。就労支援事業収入は前年度より▲1,973千円減の33,096千円になったが最終的に収支は黒字で終えた。

なお利用者工賃については、昨年度比90円増額の一人当月平均35,338円を支給することが出来た。

部門別の実績については、下記のとおりである。

		2019年度 (千円)	2018年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
木工部門収入		12,736	16,009	▲3,273	79.6
園芸部門	昆虫収入	2,845	1,905	940	149.3
	果樹収入	7,868	7,143	725	110.1
	蔬菜収入	1,216	1,479	▲263	82.2
印刷部門収入		8,429	8,532	▲103	98.8
合 計		33,096	35,069	▲1,973	94.4
一人当月工賃		(円/月) 35,338	(円/月) 35,248	90	100.3

2019年度 佐賀西部ホーム 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) グループホーム運営について

法人唯一の住まいのサービスとして、個別支援計画に基づきながら利用者の皆さんが「自分らしく暮らす」を目標に、健康で過ごせる環境づくりを行いました。昨年度より食事指導・支援の必要な方に、個別に健康指導など取組んだことで服薬量など改善があった方がいた。更に夕食前にはウォーキングやバドミントンなど体を動かす活動を取り入れ、常に健康を意識する習慣も芽生えてきた。また防火・防災対策については皆さんが安心・安全な暮らしができるよう、防火避難訓練及び水防法（土砂災害時避難確保計画）に基づいて大浦校区の指定避難場所まで移動訓練を実施しました。インフルエンザ・食中毒等の感染症対策に於いては、予防対策を徹底しグループホームから発症者が出る事なく、皆さん元気に過ごされました。余暇活動については毎年恒例のサッカーやプロ野球などスポーツ観戦や、夏季冬季連休期間中に帰宅できない方を対象に「初詣」など計画しました。職員の資質向上については、社会福祉主事取得や各種研修会の参加を促し、障害福祉サービス事業所の職員としてのスキルアップに努めた。

(2) グループホーム利用者様の豊かな人格形成

今年度は、視察研修旅行を始め、勤労感謝の会、また衣替え時期には買い物支援や余暇活動を計画し、地域社会との交流を図りながら皆さんが楽しい生活が送れる支援に努めた。

(3) 快適な質の高いグループホームづくり

昆虫の里との連携を図りながら、施設環境整備の向上を目指し、偶数第3土曜日を環境整備の日としてホーム内外の清掃を行い、整理整頓の行き届いたホームづくりを行った。また細かい部分については定期的に支援員にて清掃を行った。

(4) 喜び溢れるグループホームづくり

安心して生活できる生活環境の向上を図り、活力ある明るいホームづくりに努めた。互助会会議を通じて利用者の皆さんの意見を尊重し、自主的に取り組まれることはやらせてみて出来ないところを支援するように取り組んだ。

2. 福祉事業活動

本年度は利用者様の人員の増減はなく、福祉事業活動収入は47,904千円と前年より、195千円の増収となった。なお利用者様の支援については、個別支援計画に基づき、生活支援員を中心に世話人と連携を図りながら、本人の意思を尊重して支援にあたった。

2019年度 多良岳福祉園 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

2019年度は 夕食時などの夜間支援体制と生産活動以外の生活支援の充実を図る為、中番勤務体制の導入と土曜、日曜、祝日の生活支援員の増員を行い、日常生活の自立に向けた支援に取り組んできた。また10月から消費税10%への増税に伴い、税理士事務所と法人本部との間で契約がされた。これにより担当者から税務管理の様々な指導を頂き事務の効率化を図りながら施設運営にあたった。

また余暇活動も視察研修旅行や七夕まつり、尾車部屋から3名の力士を招くなど、ご利用者に喜んでもらえる様な取り組みに力をいれた。

防犯・防災対策として、6月に太良町役場防災担当者にご協力を頂き、指定避難所となる大浦公民館への避難訓練を実施いたしました。更に8月28日に発生した集中豪雨災害で被災した近隣の障害福祉サービス事業所への職員派遣や、また9月に発生した台風17号による深夜の大規模の停電時の対処など、災害に対する迅速な対応をとってきた。

(2) 施設利用者の豊かな人格形成

5月に祐徳稲荷神社への参拝、8月は七夕まつりを開催、9月に行われた運動会では、みんなで盛り上げ、逆転 優勝を果たし、利用者様と職員が一つになり絆を深めることができた。また勤労感謝の会も昨年を引き続き“みんなが主役 勤労感謝の会を盛り上げよう！”とテーマを掲げ、利用者様と職員で会場を踊り回るなど家族様も巻き込み、楽しむことができた。

(3) 快適な質の高い施設づくり

利用者様の部屋替えを実施することにより、片づけを行うことができた。また施設整備については厨房機器の更新や職員の勤怠管理を行う為にタイムレコーダーの導入している。

職員の資質向上については、今年もOFF JTとして県社協主催の各種研修会への参加、そしてOJTとして毎月の研修発表会を実施し、キャリアパスに求められる能力の向上に取り組みました。また9月にはAIG九州様より職員を派遣していただき、昆虫の里合同で職員研修「リスクマネジメント研修会」も実施し、事故のない安全な施設づくりにも取り組んできました。

ご利用者の支援にあたっては、個別のケース会議を開催しながら、支援方針の共有をしながら、個別支援計画に基づき、チームによる丁寧な支援に心掛けております。

(4) 働き甲斐のある施設づくり

PDCAサイクルを意識しながら、各部門責任者が中心となり生産活動とご利用者の生活支援に取り組んだ。園芸部門においては、トラクターの更新、野草部門、工芸部門は、協力して、野草茶の新商品開発に取り組んだ。しかし就労支援事業の核となる農産部門において、昨年度更新した殺菌釜の更新により、新たな栽培管理方法の見直しが全儀なくされ、生産量の減少により売上減少になってしまった。

2. 福祉事業活動

本年度は、入所利用から在宅（白石作業所へ通所）と長期入院と2名の方が退所されたが、特別支援学校からの実習を経て卒業生が1名入所となった。また本年度の事業収入としては、昨年度の障害福祉等サービス事業収益203,594千円に対し本年度は、206,060千円となり2,466千円の増益となった。

3. 日中事業活動

本年度は、農産部門、園芸部門、野草部門、工芸部門の4つの部門の事業の安定に取り組んできました。特に核となる農産部門の生産率の減少で就労支援事業収入は 全体で21,233千円にとどまったが、利用者の工賃については、一人当たり月平均12,449円の支給となり昨年度とほぼ同額となった。

部門別の収入実績については、下記のとおりである。

	2019年度 (千円)	平成30年度 (千円)	差額 (千円)	前年度比 (%)
農産部門収入	15,507	17,017	▲1,510	91.1
園芸部門収入	4,056	3,776	280	107.4
野草部門収入	1,664	1,507	157	110.4
工芸部門収入	6	101	▲95	5.9
合計	21,233	22,401	▲1,168	94.8
一人当たり工賃	(円/月) 12,449	(円/月) 12,450	▲1	100.0

4. 相談支援事業

本年度も関係機関と連携を深めながら、地域の社会資源を活用しながら、利用者意向を第一としたサービス等利用計画の作成に努めております。

2019年度 白石作業所 事業実績報告書

1. 総括事項

(1) 施設運営について

(イ) 今年度は、1月頃より新型コロナウイルスの世界的感染拡大に伴い就労事業の販売活動に大きな影響が出て、売上げが大幅に減収となった。このため、工賃積立資産の取崩しを行い目標工賃を維持することができた厳しい施設運営となった。又、利用者様と職員への感染拡大防止に努め、安心・安全な施設づくりと職場環境づくりに努めると共に、就労継続B型事業所として施設資源を十分に活用しながら、利用者様のニーズに適った明るく元気よくをモットーに働き甲斐のある施設づくりに全職員一丸となって取り組んだ。そうした中で、今年も利用者様が自ら地域での販売活動等を通してご支援をいただいた皆様に支えられながら、地域とともに就労の喜びと生き甲斐をもって作業に従事し、円滑に施設運営を進めることができた。

(ロ) 利用者様の処遇に関しては、「明るく楽しく」をモットーに、就業中における事故等が起きず作業の安全が守られるように、職員の意識向上の啓発に努めながら労働安全衛生管理の徹底に取り組んだ。又、利用者様と施設の安心・安全確保のため通報システムや災害時に即座に対応できるように職員研修等も行い、施設の保安管理を進めた。

(ハ) 職員の資質向上については、個々人の研鑽と意識改革の喚起を促すとともに、各種研修会等の参加を全職員に義務付けし、障害福祉サービスの職員としてのスキルアップに努めた。又、新たに就業規則等を改正し、働き方改革にも応じた職員処遇の大きな改善に努めた。

(2) 施設利用者様の豊かな人格形成

佐賀西部コロニー 3施設合同による視察研修旅行、収穫祭、隣接する老人福祉施設の納涼祭への参加、また、県内各地区の婦人会・老人会等との「ふれあい事業」の実施など施設内外での行事や地域との交流も活発に行うことにより、社会性の向上とコミュニケーションと交流の喜びを習得させるよう努めた。

(3) 働き甲斐のある施設づくり

法人の運営理念である『互譲互助』の精神と『笑顔かがやけ、共に歩む未来をつくろう』を1年の目標として、挨拶が響きあう明るい職場作りに努め、創意工夫を重ねながら、より効率的な作業体制をつくり、安全で快適な働き甲斐のある施設づくりに努めた。又、利用者様で作る互助会会議を毎月1日に開催して、自分達の意見で話し合いながら1ヶ月の目標を立て、皆さんが協力し合いながら明るく楽しい施設づくりに努めた。

2. 福祉事業活動

本年度の障害福祉サービス事業収入は、66,762千円となり前年度より1,291千円の減収となる決算となった。施設整備の中では園芸部門の玉ねぎ乾燥場の整備を行い、老朽化と経年経過していた送迎用のワゴン車を新たに更新した。又、パソコンのシステム更新の為に、新たに最新のパソコン3台の購入を行った。

その他、消費税増税に対応するためのPOSレジシステムの改修も前年度末に行い、今年度はスムーズに移行ができるように整備を行った。利用者様の利用状況については、増員はなかったが年度末に1名の退所者があった。職員については、8月より1名の産休・育休取得者があり、7月より1名の育休復職者があったが、基準上の職員配置内であり適切な運営を行うことができた。

3. 就労事業活動

本年度の就労事業収入は36,492千円となり、新型コロナウイルス感染拡大によるイベント中止や事業自粛等により農産収入も一般商品の販売収入も前年度に対し1,243千円の減収となった。工賃積立資産を取崩し、3月より売り上げ確保の為、急遽マスクの製造等により販売促進に努めた。そうした取り組みにより、工賃については、目標工賃達成を利用者様・職員一体となって取り組み2019年度は一人当り月平均26,701円となり、前年度の26,653円に対して48円の増額となり、2019年度の目標工賃を達成することができた。

部門別の実績については、下記のとおりである。

部 門		年 度	2019年度 (円)	平成30年度 (円)	差額 (円)	前年度比 (%)
農 産 収 入	園芸収入		3,463,204	20,011,937	▲ 218,748	98.9
	アイス収入		6,765,549			
	菓子収入		4,834,937			
	加工収入		2,839,256			
	こんにゃく収入		1,890,243			
	小計		19,793,189	20,011,937	▲ 218,748	98.9
販売収入			16,684,146	17,724,431	▲ 1,040,285	94.1
合 計			36,477,335	37,736,368	▲ 1,259,033	96.7
1人当り工賃			(円・月) 26,701	(円・月) 26,653	(円・月) 48	100.2